

(3) 指導の実際

過程	主な学習活動	時間	教師の支援と評価
つかむ・見通す	1 本時の課題をつかむ。 2.5mのリボンを、0.8mずつ分けます。 0.8mのリボンは何本できますか。 (また、あまりは何mですか。) ・解決への見通しをもち、式を立て、答えを求めてみる。 (式) $2.5 \div 0.8$ (答え) ア 3本できてあまりが出る。 イ 3.125本	8	本時の課題をしっかりとつかませるため、全体で問題文を読み、聞かれているところに波線を引かせる。 本時の学習課題をまず解かせ、既習事項との比較をさせる中で、本時に学ぶべきことを明確にさせ、めあてにつなげる。 あまりを問う文章を最初に伏せ、後で告げることで、あまりに対する意識を高める。
	2 めあてを立てる。 あまりが出るときの小数のわり算の仕方を考えよう	2	授業がより主体的な活動の場と意識できるよう、児童の言葉をできるだけ活用し、本時のめあてを立てる。
調べる	3 あまりのあるわり算の仕方を考える。 ・自力解決を図る。 ア mをcmに変えて $250 \div 80 = 3$ あまり10 3本あまり10m イ 計算のきまりを使って $2.5 \times 10 \div (0.8 \times 10)$ $= 2.5 \div 0.8 = 3$ あまり1 3本あまり1m ウ 筆算で $\begin{array}{r} 3 \\ 0.8 \overline{) 2.5} \\ \underline{2.4} \\ 1 \end{array}$ 3本あまり1m エ 単位小数のいくつ分で $25 \div 8 = 3$ あまり1 0.1が1つ分であまり0.1m 3本あまり0.1m オ 線分図から $2.5 \div 0.8 = 3$ あまり0.1 3本あまり0.1m カ 筆算で $\begin{array}{r} 3 \\ 0.8 \overline{) 2.5} \\ \underline{2.4} \\ 0.1 \end{array}$ 3本あまり0.1m	15	線分図や図などに表して考えるよう促す。 自力解決の時間には、できるだけ机間指導を行い、本時の学習内容における一人一人の実態把握に努める。 ア アイデアの良さを賞賛し、あまりについては聞いていることの単位を確かめさせ、単位変換の必要性に気づかせる。 イウ アイデアの良さを賞賛し、あまりの大きさを被除数の大きさと比べよう促す。 ・紙テープで実際に操作させる。 ・テープ図や線分図で数値を入れて確かめさせる。 ・検算をして、被除数になるかどうかを確かめさせる。 エオ 筆算では、あまりの小数点の処理についてどうするか考えさせる。 エオカ 自分の考えを筆算と関連させながら、言葉や線分図で分かりやすく説明するよう促す。 ・検算をして、被除数になるかどうか確かめさせる。
	4 解決の方法を話し合う。 ・それぞれの考えを発表する。 ・あまりの大きさがいくつになるか、理由を考えながら検討する。 ・検算で確かめる。 ・あまりの位取りについてまとめる。 あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうつ。	10	考えの進まない児童やあまりの大きさに目が向かない児童が多い場合は、自力解決の途中であっても、考え方のヒントを与え、解決の焦点を絞るようにする。 評 あまりの小数点の位置を、線分図や図をもとに考えたり、被除数と関連させて考えたりしている。(ノート・行動観察) それぞれの考えについて、ホワイトボードを活用し、発表させる。発表に不安を抱いている児童には、近くで補説したり、他の児童に予想させたりし、考えを表現できた満足感を味わわせる。 自分の考えと比べながら聞くよう促す。 具体物と線分図、検算をそれぞれ筆算と関連付けて考えさせることで、正しいあまりの位取りに気づかせる。
深める	5 問題作りをする。 ・児童が問題を作り、教師が問題を解く。 ・児童同士作った問題を解き合う。	10	「入れ替わりタイム」として、児童が問題を作り、教師が解く中で、児童一人一人がしっかりと本時の目標を達成しているか確認する。

(4) 評価
小数の除法のあまりの大きさを理解できたか。